



— 就労継続支援 B 型の試み —

目黒区高次脳機能障害者支援センター
いきいき*せかんど

「高次脳機能障害を知ってもらう」「働く」「外に出て人と触れ合う」のスローガンのもと、製造・販売を行っています。2016 年からはイタリアの伝統のお菓子「ビスコッティ」の製造を開始。昨年は目黒のさんまにちなんで「さんまビスコッティ」の商品開発もしました！さらなる試みとメンバーさんへのインタビューを紹介しします。

今年は新たにビスコッティの季節限定フレーバー、新商品「マフィン」の販売を始めました！

夏の季節限定ビスコッティフレーバーは「黒糖くるみ」でした。今まで和風の味はなかったため、イタリアと日本のコラボにしました。黒糖に漬け込んだくるみを使用しているため、深みのある甘さが特徴になっています。

新商品の「マフィン」はお子様から高齢の方まで、多くの方に食べて頂けるよう材料にこだわり、材そのもののおいしさを味わえるように作っています。野菜嫌いの方も食べられる仕上がりになっています。今後もバリエーションを増やしていこうと試作を重ねていますので、楽しみにしてください！

★活動の様子や新商品についてブログで発信しています。ぜひ、ご覧ください。... <https://ameblo.jp/ikiikifukushi/>



マフィン



黒糖くるみ

販売促進担当 田村さんにインタビュー

Q1. 新商品発売までにどのような仕事をしていますか？

試食を行い、味の特徴やおいしい食べ方などお客様に伝える内容を会議で話し合います。それを元に、ポスターやチラシを販売促進・広報の担当者が作成しています。発売後の売れ行きは経理担当がデータ管理してくれています。販売前に考えることが多く大変ですが、売れてほしいという思いで取り組んでいます！



Q2. 新商品の製造・販売で心がけていることはありますか？

味・形を一定にするのが難しいので、マニュアルを使い、一定の商品を作れるようにしています。販売の時には味がイメージできるように説明しています。お客様が「また来たい」と思えるよう、お客様の目を見ながら伝えるようにしています。



製造風景

Q3. お客様へ一言

喜んで頂けるように、おいしい商品を作っていきます。ぜひ、いきいき*せかんどの商品をごひいきくださいますようお願い申し上げます。

—ご家族同士の交流の場を—

いきいき*がくだいをご利用の若年性認知症のご家族を対象に、7月末から「いきいきカフェ（仮）」をオープンしました。普段抱えている介護の悩みなども気軽にみなさんと話合える憩いの場となればと思っています。当面は、月1回木曜日の開催となりますが、詳細はお気軽に職員までお声かけください。ビスコッティとマフィンも販売しています。 担当：山田・佐藤



新規 NPO 会員のみなさま

2名の方々に新しくご入会頂きました。どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。

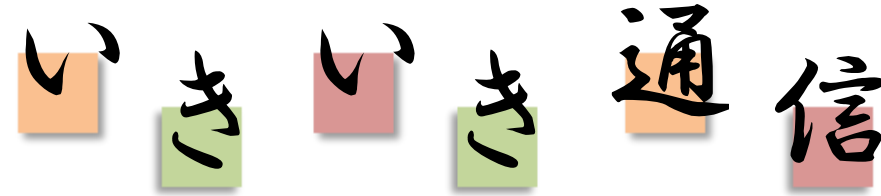
編集後記

今号ではたくさんの方にインタビューさせていただき、ひとつのイベントや活動は、たくさんの方が関わり・つながり、作りあげているのだなと改めて感じました（文・川島）

会員とは

- ・NPO法人の会員とは、主に賛助会員で構成され、事業活動を理解して応援して下さい方をいいます。
 - ・当NPO法人の場合、若年性認知症や高次脳機能障害の啓発活動を応援して下さいの方が会員となります。
 - ・施設利用の有無に関わらず、応援することができます。
- *会費とは*
- ・事務局の運営、並びに通信の発行や講座等の啓発活動に使われます。

- 【会費】
- ・入会金…1,000 円
 - ・年会費…1,000 円



第 38 号 / 2017 年 9 月 28 日発行
 発行所 特定非営利活動法人
 いきいき福祉ネットワークセンター
 〒152-0003
 東京都目黒区碑文谷 5-12-1-3 階
 TEL/FAX: 03-3713-8207/03-6808-8576
 Mail info@ikiikifukushi.jp
 HP <http://www.ikiikifukushi.jp/>
 ブログ <https://ameblo.jp/ikiikifukushi/>



Blog QR

地域で支えあうサポーター活動

今年度のいきいき通信は、前年度のテーマ「つながり」を継承し「サポーターから広がるつながり」を年間テーマにしてお届けしています。そして今年度第 2 回目のテーマは「地域で支えあうサポーター活動」になります。目黒区内で実施されている見守りの輪の取り組みへの参加をはじめとし、地域で支えあっているサポーターたちの活動の紹介をしていきます。皆さんが地域のサポーターとして、身近な地域での行われている活動に興味をもつひとつのきっかけになればと思います。

目黒区 見守りネットワーク・見守りサポーターの活動に参加しています

<目黒区 3つの見守りの輪>

見守りネットワーク（通称：見守りめぐねっと）

地域の団体・商店・企業などと協力し、地域のちょっと気がかりなことを地域包括支援センターに連絡し、ゆるやかに地域を見守る取り組み

見守りサポーター

養成講座を受け、地域のちょっと気がかりことを感じたら地域包括支援センターに連絡し、地域住民を見守る役割を担う方たち

高齢者見守り訪問事業

65 歳以上のひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の方に対する、地域の見守りボランティアによる個別の見守り

いきいき福祉ネットワークセンターは、見守りめぐねっとの協力団体として登録・活動をしています。

また、いきいき*がくだいでは、若年性認知症の取り組みとして、地域の清掃ボランティア活動を行い、地域の支えあいの取り組みを続けてきましたが（3面参照）、長い間の継続的な活動を通し、目黒区の地域ケア推進課から新たに声をかけていただき、今年 4 月からは「見守りサポーター」としての活動も始めています。決めたルートを回って地域を見守りながら地域住民とのつながりをつくりつつ、活動を通して若年性認知症についての理解を深めてもらうことも期待しています（見守りサポーターに関わる方々のインタビューは 2 面に掲載しています）。



ポストに郵便物が溜まっていないか？ 季節に合わない服を着ている人がいないか？ 道路に危険な場所はないか？ など皆で確認しながら地域の見守りをしています。気になることは地域包括支援センターに報告しています。見守り中は、見守りめぐねっとに登録している事業所に立ち寄り、変わったことはないか確認するなど、地域と協力しながら活動を行っています。

いきいき*がくだい 見守りサポーター活動中！

7月20日には中央包括支援センター（目黒区中央町）へ第1回目の実施報告を行いました。参加されているメンバーの方々からは「もっと見守りの輪が広がるように、皆で楽しみながら頑張ります」と意欲的な発言が聞かれていました。



中央包括支援センターでの報告風景

いきいき*がくだい 見守りサポーター活動に 関わる方へインタビュー

見守りネットワーク事業（通称：見守りめぐねっと）を推進している目黒区の橋川さん、いきいき*がくだいで「見守りサポーター」として活躍するメンバーの N さん、「見守りめぐねっと」に参加して地域の見守りをしてくださっているツカハラ薬局の塚原さんにそれぞれお話をうかがいました。

目黒区健康福祉部 地域ケア推進課
橋川久美子さん



いきいき*がくだい
メンバー N さん



◆いきいき*がくだいにお話をくれた理由

2 年程前に、清掃活動に参加させていただき、みなさんがいきいきと活動されている様子を見て、地域とのつながりや社会参加・役割の大切さを実感しました。また、地域の方々にも若年性認知症について正しく知っていただきたいという思いもありました。

◆見守りサポーターの活動を通して期待する地域のつながり

地域を見守るこの活動を通して、さらに地域のつながりを深め、支える側・支えられる側ということではなく、共に支え合い、いきいきと活躍できる場が広がっていくことを願っています。

この活動を多くの方に知っていただき、見守りの輪が他の地域にも広がっていくことを期待しています。

◆見守りサポーターの活動を実際に行ってみていかがですか？

地域の方が「ご苦労さま」と声をかけてくれることがうれしいです。地域を巡回していると、「大丈夫かな？」と気になる家もあるので、今後も区の方・地域の方と一緒に協力し合って見守っていききたいですね。

◆今後の展望を教えてください

高齢者だけに限らず、子供なども地域みんなで見守っていただけるといいと思います。区内に放送で「子供たちの下校時間になります」とか流したらいいんじゃないかな。そして、もっと見守りサポーターについてみんなに知ってもらえたらうれしいですね。

—地域の住民の方々からの声—

ツカハラ薬局・塚原さん

薬局では、処方箋を取りにいらっしゃった方と関わる事が多いですが、実際に話してみると「この方、脱水症状が出てるな」などが分かることがあり、話をしてみて確認することは大切だと感じています。

今後も継続して地域の方と話をしながら地域を見守っていただけると嬉しいです。



いきいき*がくだい 見守りサポーターコース



「めぐろ高次脳機能障害サポーター養成研修」を実施しました

7 月のサポーター養成研修は、訪問介護分科会より研修実施依頼を受け開催させていただきました。はぎ介護支援センター代表取締役でもあり、目黒区介護事業者連絡会副会長・訪問介護分科会代表でもある池田 謙吾さんに改めてお話を伺いました。



◆今回、研修依頼をしていただいた理由を教えてください

障害の理解はもちろん、介護に携わっている我々専門職がまずはサポーターになることで、地域の方とのネットワークづくりに役立ち、顔の見えるつながりを作っていくことで地域にある課題を解決することができると思います、依頼させていただきました。

◆サポーター研修を受講した後の変化について教えてください

同じテーマの研修でも、繰り返し研修することで理解が深まり、再度考えるきっかけとなりました。この研修で学んだ知識を実際の現場でどう実践していくかのヒントになったと思います。又、いきいき様のすばらしい取組を知ることができました。ありがとうございました。

1 年間の成果を目黒区へ報告 —いきいき*がくだい 清掃ボランティア活動—

いきいき*がくだいに通われているメンバーさんは、毎週学芸大学駅周辺の清掃ボランティア活動を継続しています。活動は来年で 10 年目を迎えます。活動の 1 年間の成果として、年 1 回目目黒区役所環境保全課に報告を行っており、今年も 8 月末に皆さんが作成した報告書・ポスターを使って報告を行いました。

当日は皆さん緊張されているご様子がありましたが、「今後清掃活動を通して地域の子供や商店街の方と交流したい」、「障害があっても共生できる社会にしたい」などご自身のお気持ちを目黒区の方々へお伝えしていました。

今後も継続して社会貢献活動を行うとともに、地域の方との交流を図っていききたいと、メンバー全員で思いを再確認した報告会となりました。



当日の様子。対面形式で報告を行いました。（左側が目黒区の方、右がメンバーさん）

「若年性認知症家族会 情報交換会」に参加

若年性認知症家族会情報交換会は、都内で活動する若年性認知症家族会同士の情報交換の場をつくり、今後相互に協力しあえる横のつながりをつくっていくことを目的としています。8 月の開催当日は 9 つの家族会と会の支援をしている行政職員などの地域関係者約 20 名が参加しました。東京都若年性認知症総合支援センターからは若年性認知症支援コーディネーターが出席しています。各家族会では、定例会のほかにも、医療機関の医師等と協力した課外活動、地域へ広く開かれた啓発活動として認知症カフェをオープンしているところもありました。運営していく中での課題としては、症状が進行された方のケアやサポート、運営費用の確保などが意見として挙がり、みなさんで意見交換を行いました。

＜都内の若年性認知症家族会＞若年認知症家族会 彩星の会（新宿）／あしたば会（江戸川）／若年認知症ねりまの会 MARINE（練馬）／若年認知症いたばしの会ポンテ（板橋）／若年認知症交流会 小さな旅人たちの会（中野・杉並）／日野市若年性認知症の「芽吹き」の会（日野）／介護家族の会 大空（立川）／府中市若年認知症介護者の会きらきら（府中）／前頭側頭葉変性症つくしの会

若年性認知症相談支援研修

若年性認知症への対応力向上を目的に、地域で若年性認知症の相談支援を行う窓口となる専門職（主に地域包括支援センター）を対象とした「若年性認知症相談支援研修会」の今年第 1 回目が 6 月に実施されました。今回は、区部・市部含め、約 100 名という多くの支援者の方々にご参加頂きました。今年も残りあと 2 回実施予定ですのでご参加お待ちしております。



当日の講義の様子